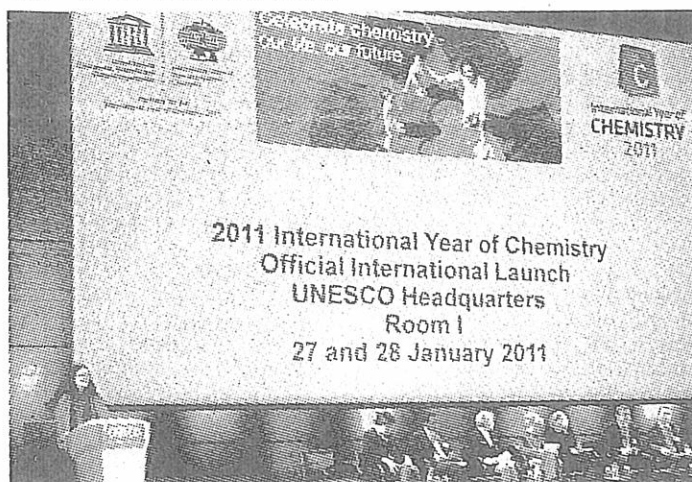


世界化学年 開幕を宣言 ユネスコ・IUPAC

世界化学年の開幕を宣言する「International Year of CHEMISTRY 2011 Launch Ceremony」が1月27、28日、パリのユネスコ(UNESCO)本部大会議場で行われた。世界各国から政府関係者、科学者、企業トップら1000人以上が出席し、世界化学年を盛り上げていくことを確認した。

セレモニーはユネスコと国際純正・応用化学連合(IUPAC)が主催して行われたもので、27日にはフランスのヴァレリー・ペクレス高等教育・研究大

◆ パリでセレモニー ◆



臣らの祝辞、1987年ノーベル化学賞を受賞したJ・M・レーン教授の基調講演、キューリー夫人の孫娘で物理学者のエレーヌ・ランジュバン・ジョリオ博士らノーベル賞受賞者4人を含む著名な科学者が講演した。

また、28日には環境と気候変動、栄養と水、健康、エネルギー、マテリアルなど国際社会が抱えている課題について科学者やBASF、ダウ、シンジェンタ、グラクソ・スミスクラインなどの企業、業界団体などからそれぞれの実態と解決策が示された。

日本からはIUPAC副会長である異和行名古屋大学教授、日本化学工業協会、日本化学会、旭化成から代表が参加した。